

八王子市議会レポート

No.53 2011年10月5日

つくる、つくろう通信



陣内やすこ 八王子市議会議員・無所属市民派 北野台在住

編集/発行：市民自治の会（陣内やすこ）

〒192-0912 東京都八王子市絹ヶ丘2-11-7 TEL 042-636-8158 FAX 042-636-8640

E-mail jinnaiya@mbk.nifty.com URL http://jinnai.ne.jp/

八王子の放射能対策、これでいいの？

～9月議会報告～

陣内やすこの一般質問

◆放射能対策について

陣内：セシウム汚染が広範囲に広がっている。八王子も例外ではない。ホットスポットがあることを環境部長も認めている。子どもたちを守るため、測定場所を増やして、汚染マップをつくる必要がある。

環境部長：12か所の測定数値が安定している。現行の測定方法を継続し、汚染マップをつくる事は考えていない。

陣内：学童保育所の自主測定で、0.5マイクロシーベルト/時、市の測定で、0.256マイクロシーベルト/時という場所があった。掃除をして、線量がさがったとのことだが、この数値が、八王子として放射能対策を行う基準なのか。

環境部長：そのようなものではない。

陣内：全会一致で採択された給食食材の放射能測定の実施の予定はどうなっているのか。弁当・水筒の持参を認めるべき。

学校教育部長：納品の場ではなく、流通する前段階での検査が必要。弁当持参については、学校における個別対応・相談は可能だが、ホームページへの掲載は考えていない。

陣内：災害がれきの受け入れについての考えは？

清掃事業担当部長：現時点で、受け入れを決定しているものではない。

(陣内：戸吹清掃工場は受け入れキャパがないようです)

一般質問3日目。朝から、放射能関係についての質問が続きました。八王子でも線量が比較的高い場所が、学童保育所であったという報告に、「だから、もっと、測定場所を多くして、子どもたちを守らなければ」との思いを強めました。これだけ広い八王子でたったの12か所、それも公園の真ん中で、という測り方に多くの疑問が寄せられています。学校や保育園など、子供関連の場所を測っていないのは、多摩26市で八王子だけです。測って安心する、線量の高いところがあれば、注意を促し、対策をたてる。なぜ、12か所で、大丈夫といいきれるのでしょうか。疑問です。

生産地としての農作物の検査、土壌検査もやりません。さらに、自衛としての弁当持参についても、まったく理解を示しません。弁当持参は親として、安心が得られるまでの急遽の策。給食を否定するものでもなんでもないのに、ガードが堅い。産地表示が一部の学校ホームページに掲載されたことがせめてもの前進か。どうなっているの、八王子の放射能対策！

議会の不思議

6月の議会で、電力の自由化（PPS）について質問。その時は、後ろ向きの答弁だったのですが、9月議会では、多くの議員が質問。態度は一変して、来年度から取り組むとのこと。大きな前進です。よかった。

陣内やすこの市政 Watching

●災害と女性

◆7月31日から8月2日まで、北九州市で行われた、全国フェミニスト議員連盟の夏合宿に参加してきました。女性が政策決定の場に多くいることによって、なにが変わってきたのか、議論し、地域女性センターなども視察してきました。

北九州市の防災計画策定委員には、女性が複数参加しています。男女共同参画センターとも連携ができ、災害時の女性の役割、障害者や高齢者の安否確認など、きめ細やかな計画が作られています。参考になりました。そして、日常的な訓練、見直しが必要と話されていました。

◆分科会では、石巻市で災害支援活動を行ってきている方の現場からの報告会に参加です。多くのボランティアの方々が献身的に活動されています。このご縁で、8月、石巻支援に伺いました。

◆八王子の防災計画の見直しに際し、女性の視点にたった計画を求めます。今のところ、市役所防災課の女性職員は13名中1名とのこと。もっと女性職員が配置されてほしいですね。

◆10月には防災訓練があちこちで行われます。女性の活躍は、食糧班だけでなく、避難所等の運営にもしっかりとかわれるようすべきです。今回の東日本大震災の経験からいえることとして、避難所運営に女性が参画していたところは、かなり風通しのよい運営ができていたとのこと。食事のこと、洗濯のこと、授乳や子どもの世話、着替えなどの配慮等々、女性に多くのストレスがたまりがちであったと報告されています。

◆常日頃からの防災意識づくりが大切です。7月に行った出前講座で学んだことはまずは自助。避難経路や防災グッズなどの点検を確認しておきましょう。

●介護保険制度改正で

何が変わる？

◆来年4月に、介護保険制度の改正があります。新たなサービスが加わりますが、市として、ニーズがないということで、取り組む予定はないとのこと。

◆地域包括支援センター12か所から、15か所に増加されます。長い間、もっと包括支援センターを、と訴えてきました。やっと、少し改善されます。地域割りの見直しもあります。しかし、まだまだです。

◆今、第5期介護保険事業計画の策定作業が進んでいます。ショートステイの整備が急がれます。特養ホームの待機者は1600人以上。介護が必要になっても、安心して在宅で暮らせる仕組みをどうするか、議論が急がれます。

ひとり事・・・要支援1、2のサービスが切り捨てになるのでは、と心配でしたが、今のところはまだ、大丈夫です。でも生活支援が狙われています。

++++お知らせ++++

◆映画案内

10月28日（金）18時15分から

『サラエボ、希望の街角』

会場：クリエイトホール ホール（5F）

主催：八王子手をつなぐ女性の会 ￥1000

問い合わせ先：042-636-8158（みんなの居場所）

090-4125-9259（陣内）

在宅医療って、どんな仕組み？

2025年には、団塊の世代が後期高齢者になります。身近なところでの地域包括ケアをしっかり作り上げる必要があります。その要となるのが、在宅医療。介護と医療をどうつないでいくのか、これが問題です。

お話し：数井 学先生

カフェミーティング

10月17日（月）14時から

みんなの居場所

10月下旬予告
要連絡